

算数科学習指導案

授業Ⅱ

4年2組 39名 指導者 福富 健

本授業は、以下の検証を行うものである。

1桁でわる除法の筆算について、包含除の場面を課題として設定し、等分除の場合との相違点や共通点を対話の視点として共有化・吟味する学びの展開は、単位の考えや統合的な考え方を働かせながら学びを深め、「学びに向かう力」を育てる手立てとして有効であったか。

1 題 材 1けたでわるわり算

2 目 標

除数が1位数で被除数が2位数や3位数の場合の等分除や包含除を適用する除法について、数量の關係に着目し、基本的な計算を基にして類推的に考えたり、計算の仕方を統合的に考えたりしながら、筆算の仕方を理解し、除法の計算が確実にできるようにするとともに、除法のよさに気づき、生活や学習に活用しようとすることができるようにする。

3 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○ 除数が1位数で被除数が2位数や3位数の場合の計算が、基本的な計算を基にしてできることを理解している。また、その筆算の仕方について理解している。 ○ 除法の計算が確実にでき、それを適切に用いることができる。 ○ 除法について、次の關係を理解している。 (被除数) = (除数) × (商) + (余り)	○ 数量の關係に着目し、基本的な計算を基にして類推的に考えたり、等分除と包含除の場面を捉え、計算の仕方を統合的に考えたりしている。	○ 除数が1位数で被除数が2位数や3位数の場合の除法について、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、除法のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用したりしようとしている。

4 題材について

(1) 題材について

本題材では、被除数を(2, 3位数)まで拡張し、 $(2, 3 \text{ 位数}) \div (1 \text{ 位数})$ の除法の意味や計算の仕方を考える活動を通して、既習の除数と商が1位数の除法の計算の仕方を基に類推して筆算も含めた計算の仕方を考えることができるようにする。具体的には、等分除や包含除の場面で、具体物等を用いて実際に分けたり、そのことを絵や図、式などに表したりして、それらをまとまりに着目して考える単位の考えを基にして比較・關係付けながら考えることで、被乗数を位ごとに10や100のまとまりとばらで捉えたり、累減する数のまとまりで考えたりすればよいことに気付くことができるようにする。また、筆算の意味や仕方と關係付けながら理解することができるようにするとともに、2つの除法を統合的に捉え、筆算を用いて計算することができるようにする。

本題材で育まれた資質・能力は、除数が2位数の除法や、小数、分数の乗法、除法の計算について考察する学びへと発展していくものである。

(2) 子供について

本学級の子供は、除法を活用する問題への関心・意欲が高い子供とそうでない子供の二極化が見られ、除法に関する基礎的・基本的な知識及び技能も概ね身に付けている子供と、そうでない子供がいる。また、除法が一つ分を求める場合(等分除)と、幾つ分を求める場合(包含除)があることを理解している子供は3割程度で、それぞれの相違点や共通点を統合的に捉えて説明することができない子供が多くいる。乗法の逆算としての理解が強く、乗法の考えを基にして類推的に考えようとしている児童もいるが、除法を式を用いた形式的な処理として捉えている傾向も見られ、まとまりごとに考えようとする単位の考えを基にした見方・考え方について課題が見られる。

(3) 指導について

題材のねらいや子供の実態を基に、本題材では、数を位ごとに10や100のまとまりで捉えたり、累減する数のまとまりで捉えたりする過程や、等分除と包含除の相違点や共通点を捉え、統合的に考える過程を大切にしたい。

具体的には、まず、乗法九九1回適用の $(2 \text{ 位数}) \div (1 \text{ 位数})$ の意味や計算の仕方について考える活動を通して、余りの処理や答えの確かめ方について考え、まとまりに着目して考えることができるようにする。次に、乗法九九2回適用の等分除の場面における $(2 \text{ 位数}) \div (1 \text{ 位数})$ の意味や計算の仕方について、具体物等を操作したり、絵や図、式などを用いたりしながら考える活動を通して、被除数を10のまとまりとばらで捉えて、位が大きい方から計算しながら筆算の意味や手順を理解できるようにする。また、包含除の場面における計算の意味や計算の仕方を考える活動を通して、2つの除法の相違点や共通点を理解し、筆算の表現を通して統合的に捉えることができるようにする。さらに、 $(3 \text{ 位数}) \div (1 \text{ 位数})$ について、それまでの学習を基に類推して考える活動を通して、除法の意味や計算の仕方をまとめて理解することができるようにする。

5 指導計画（総時数 13 時間）

ア～ホ：重点化する「学習の基盤となる資質・能力」

小題材	主な学習活動【評価規準】	時間	基盤となる資質・能力		
			言語	情報	問題
意味 ①	1 等分除と包含除の場面を式に表し、計算の意味や計算の仕方、答えの確かめ方について話し合う。 【知：除法の意味や計算の仕方、答えの確かめの仕方を理解している。】	1	カ	ノ	
商 が 2 けた の わり 算 ⑤	2 (何十・何百) ÷ (1位数) の除法は、10や100を単位とすることで、(1位数) ÷ (1位数) と同じように計算できることが分かる。 【知：(何十・何百) ÷ (1位数) の計算の意味や計算の仕方を理解している。】	1	カ	ノ	
	3 繰り下がりのない (2位数) ÷ (1位数) の計算の意味や計算の仕方を考える。 【思：既習の除法の計算の仕方を基にして、繰り下がりのない (2位数) ÷ (1位数) の計算の仕方を考えている。】	1	ケ		ホ
	4 等分除の場面で、繰り下がりのある (2位数) ÷ (1位数) の計算の意味や仕方と筆算とを関連付けて考える。 【思：既習の除法の計算の仕方を基にして、繰り下がりのある (2位数) ÷ (1位数) の計算の仕方を考えている。】	1	サ		ホ
	5 包含除の場面について、等分除の場面と比較・関係付けながら計算の意味や筆算の仕方を考える。 【思：等分除と包含除の計算の意味や筆算の仕方の共通点を基に、筆算の仕方を同じ除法として統合して考えている。】	1		ノ	ホ
	6 余りのある除法や商に0が立つ除法の筆算の仕方を考える。 【知：(2位数) ÷ (1位数) の筆算の仕方を理解し、正確に計算することができる。】	1	サ	ノ	
		(本時)			
の3 けた ÷ 1 けた ③	7 (3位数) ÷ (1位数) の計算の仕方を考えたり、商が3位数になる場合の計算を考えたりする。 【思：筆算の仕方を、除法の具体的場面と結び付けながら、筋道を立てて説明している。】	1	サ		ホ
	8 (3位数) ÷ (1位数) で商が2位数になる場合の計算をする。 【知：(3位数) ÷ (1位数) = (2位数) の筆算の仕方を理解している。】	1	ケ	ノ	
	9 (3位数) ÷ (1位数) で商に空位がある場合の計算をする。 【知：商に0が立つ筆算の効率的な処理の方法を理解し、計算できる。】	1	ケ	ノ	
どんな 式に ⑤	10 問題文や図から数量の関係をとらえ、図をかくて問題場面を式に表す。 【思】言葉や図などを手がかりにして、乗法や除法の演算決定をしている。	1	カ	ノ	
どんな 式に ⑤	11 乗法や除法の考えを活用して、問題を解決する。 【思】既習事項を活用して、問題の解決の仕方を考えている。	1	カ		ホ
練習・ だめし ②	12 既習事項の理解を深め、練習問題をし、学習したことをまとめる。 【知：題材を振り返り、練習問題を解いて、分かったことをまとめることができる。】	1	オ		
	13 既習事項を確かめ、練習問題を解く。 【態：題材を振り返り、学習したことを生活や学習に活用しようとする意欲を高めている。】	1	ス	ハ	

6 本 時 (5 / 13)

(1) 目 標

包含除の場面における (2位数) ÷ (1位数) の計算の意味や筆算の仕方を考える活動を通して、数のまとまりに着目し、言葉や数、式、図などを関係付けて意味を捉えたり、等分除の場合との相違点や共通点を考えて、統合・発展的に考えたりすることができるようにする。

(2) 評価規準

等分除と包含除の計算の意味や筆算の仕方の共通点を基に、筆算の仕方を同じ除法として統合して考えている。 【思考・判断・表現】

(3) 指導に当たって

つかむ過程では、既習の等分除の筆算と包含除の筆算が同じでよいか確かめたいという思いや問いを創出し、学習問題を焦点化できるようにするために、包含除の場面を提示し、等分除の筆算の仕方を考えてきた前時までの学びとの違いを、問題場面の意味の視点から問うようにする。

見通す過程では、問いや見通しをもって主体的に問題を解決することができるようにするために、自力で解決を試行したり、見通しをもち直したりする場を子供の学びに応じて行きつ戻りつ柔軟に展開する。

見つける・磨き合う過程では、様々な表現によって表出された考えを理解し合って関係付けて考えたり、よりよい表現を求めたりすることができるようにするために、自分なりの表現方法を用いて解決を試行した考えを、対話を通して解釈し合う場を設ける。その際、図や式と筆算の考えを関係付け、数のまとまりに着目したり、等分除の学びを拡張して統合的に考えたりすることができるようにするために、吹き出しや矢印等を活用して集団での思考を板書上で可視化する。そして、数のまとまりのつくり方に着目して考えれば、等分除も包含除も筆算は同じようにできることに気付く。2つの除法の筆算を統合的に考えることができるようにするために、図や引き算の考えと、等分除と同じようにして計算した筆算の共通点を問うようにする。

振り返る過程では、学びを整理して確かなものにし、他の問題場面に適用しようとしたり、次時への問題意識や解決意欲を高めたりすることができるようにするために、板書を基にしながら本時で学んだことや学び方のよさについて問うようにする。

(4) 本時の展開

〔 〕 子供の意識 ○ 指導の手立て ※評価規準

過程	時間	主な学習活動	指導の手立て
つかむ		1 学習課題を受け止める。 9 2 このあめを1人に4こずつ配ります。何人に分けられるでしょうか。	○ 立式の根拠を問い、学習課題にある数や言葉と式を関係付けることで、課題の構造を捉えて問題場面の意味を理解することができるようにする。
見通す	10	2 学習問題をつかむ。 取り算の筆算も、分け算のときと同じようにしてよいのかな。 3 解決の見通しをもつ。 ・ 答えは20人よりは多そうだね。 ・ 九九で答えを求めるわり算は、取り算も分け算も同じようにできたから、筆算も同じようにしていいんじゃないかな。 ・ 分け算のときと同じように、図をかいたり、引き算(累減)で考えたりして、筆算の仕方とつなげて考えたらどうかな。	○ 等分除(分け算)の場面における筆算の仕方を考えてきた前時までの学びとの違いを、問題場面の意味の視点から問うことで、包含除(取り算)の問題場面であることに着目できるようにする。 ○ 包含除の場面を提示することで、既習の等分除の筆算と包含除の筆算が同じでよいか確かめたいという思いや問いを創出し、学習問題を焦点化できるようにする。 ○ 見通しと自力解決、相互解決の場を分けて設けるのではなく、学びに応じて対話をする場を設けて、それらの場を行きつ戻りつ柔軟に展開することで、問いや見通しをもって主体的に問題を解決することができるようにする。
見つける	30	4 自分なりの方法で考える。 ・ 図や引き算で考えたら、4個のまとまりが、23人分できるよ。 ・ 10人分ずつまとめると、40個分のまとまりが2つできて、4個のまとまりが3人分残るね。 ・ 筆算で4個ずつ分けていくと、大変だ。	○ 自分なりの表現方法を用いて解決を試行し、それを対話を通して解釈し合う場を設けることで、考えを理解し合って関係付けて考えたり、よりよい表現を求めたりすることができるようにする。
磨き合う		5 解決の仕方を話し合う。 ・ 取り算と同じように筆算して求めた答え23は、4個のまとまりが20人分と、残り3人分を合わせたということだね。 ・ 4個のまとまりを取っていく引き算で考えると大変だけれど、大きなまとまりを考えると、分け算も取り算の筆算と同じようにできそうだね。	○ 吹き出しや矢印等を活用して集団での思考を板書上で可視化することで、具体物の操作や絵、式と筆算の考えを関係付け、数のまとまりに着目したり、等分除の学びを拡張して統合的に考えたりすることができるようにする。 (問) 図や引き算の考えと、等分除と同じようにして計算した筆算の共通点を問うことで、数のまとまりのつくり方に着目して考えれば、筆算の仕方は同じようにできることに気づき、2つの除法の筆算を統合的に考えることができるようにする。
振り返る	5	6 本時の学習を振り返る。 位のまとまりで分けるのと、一つ分のまとまりで分けるというのは違うけれど、筆算は、取り算も分け算のときと同じようにしてよさそうだ。 ・ 計算をするときは、いつもまとまりをつくってその幾つ分を考えているね。 ・ 前の学習やいろいろな解き方をつなげると、いつも解決できるね。 ・ 他の問題やもっと大きい数のわり算も、同じように筆算できるのかな。	※ 等分除と包含除の計算の意味や筆算の仕方の共通点を基に、筆算の仕方を同じ除法として統合して考えている。 (ノート、発表の様子)【思考・判断・表現】 ○ 板書を基にしながらか本時で学んだことや学び方のよさについて問うことで、学びを整理して確かなものにし、他の問題場面に適用しようとしたり、次時への問題意識や解決意欲を高めたりすることができるようにする。

算数科学習指導略案

授業 I

1 年 3 組 2 8 名 指導者 大山 乃輔

本授業は、以下の検証を行うものである。

- 日常生活にあるゲームを学習課題とすることは、生活の中の身近な事象から課題を発見することや解決に向けての意欲をもたせる手立てとして有効であったか。
- 引き分け含む三つの数による合成を考えることは、10 を他の数の和や差として関係付けて見る手立てとして有効であったか。

1 題 材 いくつといくつ

2 指導計画（総時数 5 時間）

ア～ホ：重点化する「学習の基盤となる資質・能力」

小題材	主な学習活動【評価規準】	時間	基盤となる資質・能力		
			言語	情報	問題
いくつといくつ	1 5 や 6 の玉落としゲームを行い、5 や 6 がどのように分かれるかを調べる。 【思：5 と 6 の分け方には、いろいろな場合があることを見いだしている。】	1		ノ	ホ
	2 サイコロの出た目から 7 をつくるゲームを行い、7 がどのような数で構成されているか調べる。 【知：7 の数構成を理解している。】	1		ネ	
	3 箱から 8 個のおはじきを取り、8 がどのように分かれるかを調べる。 【知：8 の数構成を理解している。】	1		ネ	
	4 数図カードを用いて神経衰弱を行い、9 がどのような数で構成されているかを調べる。 【知：9 の数構成を理解している。】	1		ネ	
	5 じゃんけんゲームを行い、三つの数による 10 の合成・分解を考える。 【思：3 つの数による 10 の数構成を考えることで、10 を多様に見ている。】	1 (本時)	ス		ホ

3 本 時（5／5）

(1) 目 標

じゃんけんゲームの結果を考察することで、10 を他の数の和や差として関係付けて見ることができるようにする。

(2) 評価規準

三つの数の合成の仕方を考えることで、10 を他の数の和や差として関係付けて見ている。

【思考・判断・表現】

(3) 指導に当たって

つかむ・見通す過程では、子供たちの生活に身近なゲームを取り入れることで、生活の中の身近な事象から課題を発見することや解決に向けての意欲を高めることができるようにする。また、「引き分け」を回数に含めることでこれまでの二つの数による合成・分解よりも発展的な課題に取り組むことでその後の「磨き合う過程」において、10 を他の数の和や差として関係付けて見ることに繋げることができるようにする。

見つける過程では、これまでに学習したことを使うことができないか問うことで、9 までの数構成を使って解決する見通しをもつことができるようにする。また、三つの数の合成を考える中で、既習事項である 9 までの数構成を活用する機会を設けることで、学習したことが次の学習に繋がることに気付くことで、学びに向かう力を育成することができるようにする。

磨き合う過程では、一人の結果を中心に 10 になっているかを考えることで、議論の前の前提条件を揃え、「共有化・吟味」を行いやすくし、合成の仕方が多様にあることに気付くことができるようにする。そうすることで、その後の加法や減法及び三口の計算の仕方の素地的な経験をすることができるようにする。また、合成の過程を通して、分解の場面に置き換えて捉えることで、10 を三つの数の和や差として見るができるようにする。

まとめる過程では、吹き出しに書かれた「数学的な見方・考え方」を振り返り、本時のまとめをすることで、学習したことを学級全体で整理をすることができるようにする。

(4) 本時の展開

〔 〕 子供の意識 ○ 指導の手立て ※評価規準

過程	時間	主な学習活動	指導の手立て
つかむ・見通す	10	1 学習課題を受け止める。 じゃんけんゲームをしよう。 <ルール> - 先生と子供でじゃんけんをする。 - 引き分けも一回と数える。 - 全部で十回して勝敗を決める。 2 じゃんけんゲームをする。 〔 ・ だれが一番たくさん勝ったのかな。 ・ ぼくが、一番じゃないかな。 〕 3 学習問題を焦点化する。 10回やっているか分かるには、どうすればいいのかな。 4 解決の見通しをもつ。 〔 ・ いくつといくつの考え方で、10になるか確かめたらいいんじゃないかな。 〕	○ 子供たちの生活に身近なゲームを取り入れることで、学習への意欲を高めることができるようにする。 ○ ルールを確認する時間を十分にとることで、活動に見通しをもって取り組むことができるようにする。 ○ 全員の結果をバラバラに黒板に提示することで、数対を整理したいという意欲を高めることができるようにする。本当に、「全員が10回の記録になっているのか」を問うことで、自分の結果が10回になっているかを確かめたいという課題意識をもつことができるようにする。 ○ これまでに学習したことを使うことができないか問うことで、9までの数構成を使って解決する見通しをもつことができるようにする。 ○ 解決が難しい子供には、これまでの5から9の数構成を一緒に振り返り、解決方法を考えることができるようにする。 ※ 三つの数の合成の仕方を考えることで、10を他の数の和や差として関係付けて見ている。 (発言、ノート、操作活動) 【思考・判断・表現】
		5 自分なりの方法で課題を解決する。 〔 ・ 3と2で5で、5と5で10になるよ。 ・ あれ、10にならなかった。 〕	
見つける	5	6 学級全体で話し合う。 〔 ・ 10になるものとならないものがあったよ。 ・ いろいろな数から10をつくることができるんだね。 〕 7 他のペアの結果を考察する。 〔 ・ 三つの数でも10をつくることができよかった。 ・ 10のつくりかたがいろいろあるんだね。 ・ やった、ぼくが一番じゃんけんが強かったんだ。 〕	情 三つの数による10の数構成の仕方を考える中で、既習の数構成の仕方を活用し、課題を解決することができるようにする。 ○ 一人の結果を取り上げ、10になっている根拠を尋ねることで、様々な合成の仕方を考え、10を三つの数の和として多様に見ることができるようにする。 ○ 吹き出しに書かれた、「数学的な見方・考え方」を振り返って本時のまとめをすることで、学習したことを学級全体で整理をすることができるようにする。
磨き合う	25	8 学習したことを確認する。 三つの数でも10をつくれば、10回やっているかが分かるよ。 9 本時の学習を振り返る。 〔 ・ 10回終わったかを確認するには、いくつといくつの学習を使って10のまとめりをつくらうといいんだね。 〕	
振り返る	5		

算数科学習指導略案

授業Ⅰ

6年3組 38名 指導者 森園 直也

本授業は、以下の検証を行うものである。

2つの除法場面における課題を提示し、既習内容や図・式などを用いて課題を統合的に解決するための数学的活動の工夫は、除法の意味を理解し、立式する手立てとして有効であったか。

1 題 材 分数のわり算

2 指導計画（総時数9時間）

ア～ホ：重点化する「学習の基盤となる資質・能力」

小題材	主な学習活動【評価規準】	時間	基盤となる資質・能力		
			言語	情報	問題
分数÷分数の計算⑥	1 1dLのペンキでぬれる面積を求める式を立て、図や表を使って調べ、分数でわる意味と立式の仕方を理解する。 【思：分数の立式の根拠について、言葉の式や図を用いて考えている。】	1		ノ	ホ
	2 (分数)÷(分数)の計算の仕方を図や既習内容を基にして考え、計算の仕方を一般化する。 【思：(分数)÷(分数)の計算の仕方を既習内容を基に考えている。】	1		ネ	ホ
	3 数直線を用いた除法の演算決定について理解を深める。 【思：問題場面に合った除法の立式の根拠について、数直線や既習内容を用いて考えている。】	1 (和時)		ノ	ホ
	4 (分数)÷(仮分数)の計算の意味、計算の途中での約分の仕方、既習の計算の関係を理解する。 【知：(分数)÷(分数)を途中で約分して計算することができる。】	1	オ	ハ	
	5 帯分数でわる計算の仕方を理解し、1より小さい数でわると、商は、被除数より大きくなることを理解する。 【知：帯分数でわる計算をし、被除数と商の関係を理解することができる。】	1	オ	ヌ	
	6 帯分数の除法の問題を線分図や表をもとに式を立て、それぞれの商を求める。 【思：数量の関係を線分図や表に表し、式を考えている。】	1		ネ	ホ
まとめ ①	7 分数の乗法や除法を適用する問題で、その数量の関係を捉えて演算決定し、問題を解決することで理解を深める。 【思：数量の関係を捉えて立式し、問題を解決しようとしている。】	1		ヌ	ホ
だ練 め習 し・ ②力	8 既習事項の理解を深め、練習問題をし、学習したことをまとめる。 【知：既習事項を振り返り、分数のわり算についての理解を深める。】	1	オ		
	9 既習事項を確かめ、練習問題を解く。 【知：題材を振り返り、分かったことをまとめ、練習問題を解くことができる。】	1	ス	ハ	

3 本 時（3／9）

(1) 目 標

既習内容や図、数直線を用いた除法の演算決定について理解を深めることができるようにする。

(2) 評価規準

問題場面に合った除法の立式の根拠について、既習内容や図、数直線を用いて考えている。

【思考・判断・表現】

(3) 指導に当たって

つかむ・見通す過程においては、2つの問題文を提示し、いくつかの式が出てくることによって、立式の困難性を具体化することで問いを創出し、主体的に問題を解決することができるようにする。また、これまでの学習内容を振り返ったり、式の違いは何かを話し合ったりすることによって、見通しをもって解決できるようにする。

見つける過程においては、数量の関係を数直線や図に表したり、整数の場合や言葉の式に置き換えたりする活動を通して、除数と被除数を的確に判断し、自分なりに除法の立式の根拠を考えることができるようにする。

磨き合う過程においては、小集団や全体での話し合いにより、対話を通して解釈できるようにする。また、多様な考えを「共有化・吟味」したり、集団での思考を比較・検討できるように構造的な板書を活用したりして、整数や小数、分数の場合でも1あたりの数を求める計算は、わり算であることに着目し、除法を統合的に捉えることができるようにする。その際、「なぜ、整数や小数で使えた方法を分数に使ってもよいのか。」「そもそも除法とはどういう計算なのか。」などの問いをもち、立ち止まって考えることを大切にすることで、より理解を深めることができるようにする。さらに、分数の問題作りをし、その結果やこれまでの学習内容を振り返ることで、わり算の適用範囲を発展的に捉え直すことができるようにもする。

振り返る過程においては、吹き出しによる板書を活用して、本時を振り返り、働かせた「数学的な見方・考え方」を明確にすることで、学んだことを振り返って考えようとする態度を養うとともに、類似の事柄をつなげて考えることによって新しい考え方を生み出していこうとする態度を養うことができるようにする。

(4) 本時の展開

〔 〕 子供の意識 ○ 指導の手立て ※評価規準

過程	時間	主な学習活動	指導の手立て
つかむ・見通す	10	1 学習課題を受け止める。 2/5 m の長さの鉄の棒があります。 重さは、3/4 kg です。 ・ 求めるものが分からないな。 ・ 何を求めるのかな。 ・ かけ算になるのかな、わり算になるのかな。 1 m あたりの重さは何 kg になりますか。 1 kg あたりの長さは何 m になりますか。 ・ 2つの違いは何かな。 ・ 分数のわり算の式を考えるのは難しいな。 ・ どうすれば式が立てられるかな。 2 学習問題を焦点化する。 分数のわり算は、どうすれば上手く式を立てられるだろうか。	○ 前時の学習を振り返り、条件不足の問題を提示することで、わり算の構造に着目し、問題意識をもつことができるようにする。 ○ 2つの問題文を提示し、いくつかの式が出てくることによって、立式の困難性を具体化することで問いを創出し、主体的に問題を解決することができるようにする。 ○ 試行した結果や課題を出し合う場を設定することで、どうすれば上手く式を立てることができるか、学習問題を焦点化できるようにする。 ○ これまでの学習内容を振り返ったり、式の違いは何かを話し合ったりすることで、見通しをもって解決できるようにする。
		3 解決の見通しをもつ。 ・ 整数や小数の場合で考えてみよう。 ・ 数直線や4マス関係図を使うと上手く説明出来そうだな。 ・ 1あたりの量に着目してみよう。 4 自分なりの方法で考える。 ・ 数直線で考えると、求めるものが分かりやすいね。 ・ 整数に置き換えると、式が求められるね。 ・ 1あたりの量でわれば、式が立てられるね。 5 解決の仕方を話し合う。 ・ これまで学習した整数や小数のわり算と同じ考え方でできるね。 ・ 1あたりの量を求める単位でわればいいね。 6 本時の学習について確認する。 1あたりの量を求める考え方で、式を立てることができる。求める1あたりの量に注目するとよい。 7 適用問題に取り組む。 ・ 式からどんな問題ができるかな。 ・ これで分数のわり算の式も上手く立てられるぞ。 8 本時の学習を振り返る。 ・ これまでの考え方が使えるんだな。 ・ これまでの学習や考え方をつなげると、解決することができたね。 ・ 他の問題はどうなっているのかな。	○ 一つの方法で解決できた子供には、他の方法で解決することができるような声掛けをし、さらにどのような表現を使えばよいかを考えることができるようにする。 ○ 自力解決が難しい子供には、ノートを振り返ることを促したり、考え方カードを提示したりすることで、解決できるようにする。 ○ 自分なりの表現方法を活用して解決を試行し、それを小集団や全体での話し合いをすることで解釈できるようにする。 ※ 整数や小数の場合で考えたり、数直線を使ったりして、どうすれば式が立てられるか考えている。 (活動の様子やノート、発表)【思考・判断・表現】 問 多様な考えを「共有化・吟味」したり、集団での思考を比較・検討できるような構造的板書を活用したりして、1あたりの数を求める計算は、わり算であることに着目し、除法を統合的に捉えることができるようにする。 ○ わり算の式から問題づくりをすることで、わり算の適用範囲を発展的に捉え直すことができるようにする。 ○ 吹き出しを活用した振り返りを行うことで、学びの変容や問題を解決することのよさを実感することができるようにする。
見つける・磨き合う	25		
振り返る	10		